

# 今工会報

第 4 1 号

発行所

今工会事務局

☎557-0024

大阪市西成区出城1-1-6

大阪府立今宮工科高校内

電話 06 (6631) 0055~7番

編集発行人 吉田 信夫

## 誇りに思う今工 今工会会長 野田 昌洋

今工会会員の皆さん、益々のご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成 26 年に今工 100 周年が盛大に行なわれたあと、平成 27 年の総会で峯山会長の後を受け会長に就任させていただきました、昭和 40 年建築科卒業の野田昌洋でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

100 周年の記念事業として作っていただいた校歌碑も堂々と校舎の正面に光り輝き、100 周年を越えた母校が益々歴史と伝統のある名門の学校として大きく成長をしていますことを誇りに思います。近年は工業系大学進学校として府下工科高校のリーディング校となっています。教職員・関係者のご協力により、一段と誇りある歴史を築いていただいていますことに心よりお礼申し上げます。

役員会としましても母校と今工会のため一層尽力をしていきたいと思ひます。いま会員の方々の実績を資料室に残すこと、若い世代の方々の参加・交流の具体化を進めたいと取り組んでいます。どうか皆様のご理解とご協力をお願い致します。

会員の皆様には、誇り高く社会で大きく羽ばたいていただきたく思います。これからも会員皆様の更なる母校と今工会へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今工会館と藤棚



## 2017年 今工会総会 ご案内

10月29日(日) 11時開会

10時30分受付

場所：「敦煌」道頓堀本店

会費：5000円

同封の返信はがきで

10月10日までにご返事お願い致します。



# ご挨拶 学校長 山崎 晃

今工会会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は本校教育に格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

大阪府教育委員会から高大連携重点型工科高校の指定を受け、平成 26 年 4 月より工学系大学進学専科を開設し、今年 3 月に初めての卒業生を送り出すことができました。

この専科は、1 クラスの単独募集とし、生徒たちが工科高校でものづくりの基礎を身につけた後、工学系大学等において先端技術を学ぶことで、将来の有能な技術者を育成することを目的としています。この専科の今春の卒業生の多くは、国公立大学や私立大学等の工学部や理工学部などへの進学を実現しました。これらの進学や就職に必要な学力を向上させるため、百周年記念事業として創設いただきました学習支援基金を、土曜日に開催している大学生や大学院生を講師とした自学自習教室（飛

翔教室）の運営費用等に活用させていただいております。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。次第です。

生徒たちは「夢」の実現に向け、授業に、クラブ活動に、また、生徒自治会活動にと積極的に高校生活を送っています。これからも、今工生が誇りと自覚を持ち、充実した高校生活を送るとともに、自らの将来を積極的に切り開いていくことができるよう、学校一丸となって、日々精進してまいる所存です。今後とも本校へのご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍、今工会のますますのご発展を祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。



・・・紹介します・・・

- 全日制教頭 富岡優人
- 準校長 島原賢司
- 定時制教頭 藤本雅人
- 事務部長 浜本章義

平成 26 年度より、本校に工学系大学進学専科が設置され、今春第一期生 37 名が将来の希望を胸に本校を巣立ってゆきました。

卒業後の進路については、国公立大学 2 名、私立大学 21 名、短期大学等 5 名、専門学校 3 名、学校あつせんでの就職 2 名、公務員 2 名、その他 2 名となりました。

このうち 4 年制大学については、国立大学 2 名、本校と高大連携を行っている大阪工業大学に 10 名が合格しました。いずれも推薦制度を利用した入試を受けて合格しましたが、昨今の大学進学者の増加に伴い、早く進路を決めたいがために推薦入試の受験者が増加し、難易度も高くなってきています。その対策として、授業の他に、夏休み中の補習授業や飛翔教室、面接、小論文対策のガイダンスなど、きめ細かな受験指導を行なってまいりました。それと生徒一人ひとりが工学系大学進学専科の一期生としての誇りを持ち、頑張った結果が実を結んだものと考えられます。

就職についても好調で、学校あつせんを希望した生徒 187 名

## 工学系大学進学専科第 1 回卒業生集立つ

に対して、指定校求人件数 700 件、求人数 823 人で、求人倍率は約 4.4 倍となり一社目での内定率は約 84% となりました。今後も就職、進学ともに強い「今工」を目指し進路指導の充実に努めてまいりますのでご支援のほどよろしくお願いたします。

**進学先** ( ) は工学系大学進学専科  
**国公立大学**：豊橋技術科学大学 1 名 (1 名)  
高知工科大学 1 名 (1 名)

**私立大学**：関西大学 1 名、立命館大学 1 名 (1 名)、京都産業大学 1 名 (1 名)、近畿大学 2 名 (1 名) 大阪工業大学 11 名 (10 名)、摂南大学 3 名 (1 名)、大阪産業大学 7 名 (6 名) 大阪電気通信大学 2 名 (2 名) 桃山学院大学 1 名、大阪経済法科大学 2 名 (1 名) 大阪学院大学 1 名、大阪商業大学 3 名、大阪成蹊大学 1 名、大阪国際大学 1 名、関西国際大学 1 名 (1 名) 計 37 名

**短期大学等**：産業技術短期大学 3 名 (2 名)、関西外国語大学短期大学部 1 名 (1 名) 計 4 名

**専門学校等**：修成建設専門学校 1 名 (1 名)、中日本航空専門学校 2 名 (1 名)、大阪工業技術専門学校 1 名、近畿コンピュータ電子専門学校 1 名、他 15 名



平成 2 8 年 度 会 計 決 算 報 告

【一 般 会 計】

収入の部

前年度繰越金	22,316,837	
会費収入	2,308,000	全日制 2,104,000 (8,000×263名) 定時制 204,000 (8,000×21名、6,000×3名、4,000×4名、2,000×1名計 30名)
銀行利息	6,411	
雑収入	2,388	学級費残金寄付
	175,000	理事会会費
合 計	24,808,636	

支出の部

総務費	総会・幹事会費	247,799	総会、理事会、幹事会等諸費
	卒業生記念品等	192,264	卒業証書ホルダー
	慶弔費	21,952	
	庶務部費	0	
編集費	会報発送諸費	0	
	会報発行諸費	0	
	編集部費	39,274	資料収集等諸費
事業費	支部・クラス会補助費	56,170	
	広報関係費	0	
	部活振興費	0	
	事業部費	356,400	ホームページ運用サポート、管理費
会計費	会計監査費	1,512	
	会計部費	0	
事務費	事務局費	96,435	資料室整備、事務局諸費
	企画室費	18,258	資料室展示資料収集、作成諸費
	調査・通信・交通費	66,552	
予備費		0	
合 計		1,096,616	

【部活動振興会援助基金】

収入の部

繰越金	1,715,713
銀行利息	225
合 計	1,715,938

支出の部

陸上部近畿大会	51,500
陸上部高校ユース	27,600
機械工作部ロボカ	69,012
ップ全国大会	
税金	35
合 計	148,147

差引残高 1,567,791

平成 29 年度へ  
繰り越し

【周年記念事業基金】

収入の部

繰越金	2,719,812
記念誌	27,000
銀行利息	28
合 計	2,746,840

支出の部

振込手数料	810
合 計	810

差引残高 2,746,030

平成 29 年度へ  
繰り越し

差 引 残 高 23,712,020 平成 29 年度へ繰り越し

定時制

平成 29 年 3 月 卒 業 各 ク ラ ス 幹 事 の 方 々

全 日 制

- MA 笹井一基・佐藤璃空
- MB 木ノ元晃大・林 尚弥
- EA 亀丸祐馬・田畑隆法
- EB 市野航輝・阪本一馬
- A 千足悠衣・若林優作
- G 稲崎恭弘・田中捺樹
- T進 大中原直人・山本泰生

定 時 制

- 奥野将幸
- 高野 翔
- 島本滉大



## シベリア抑留体験を 母校で講演される

高級建築科昭和 16 年卒業 **渡邊 實氏**

2006 年 6 月建築科 3 年生に、10 月電気科 3 年生に「母校の学生たちにシベリア抑留者を語る・・・戦争体験談」として話されました。

### 今工入学・・・卒業・・・就職・・・徴兵

大正 12 年大工の一人息子として生まれた。家計から「進学は断念」と考えたが、父が「人を使える人間になってワシより偉い人間になれそのために中学校へ行け」と。進学組の一員となり放課後も頑張り、今工の建築科に入学できた。昭和 16 年大手の鉄鋼建設会社に入社。同年 12 月 8 日大東亜戦争に突入、我が人生の苦難が始まった。

昭和 18 年徴兵検査で乙種合格、19 年召集令状、徴兵。出発の日「この我が家の敷居をきつと又、跨ぐんだ！」と一瞬脳裏に・・・不思議な運命の定めだったのかと・・・。

### 満州独立工兵隊・・・残留教育隊

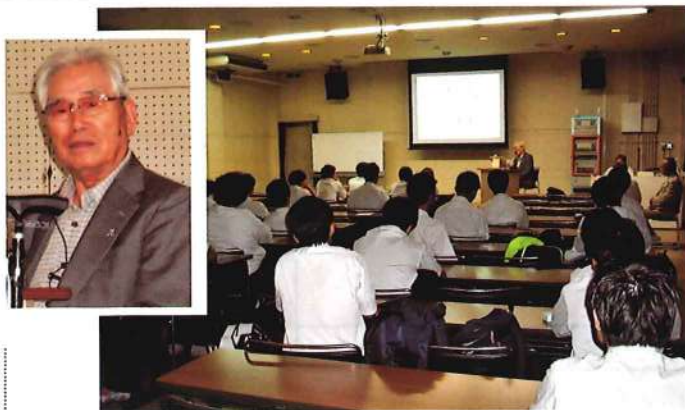
着任地は旧満州国北東部・松花江の沿岸の小さな町”チャムス”。半年間ミッチリ基本をたたき込まれる。満州の冬は零下何十度、夏は 40 度近い高温の中での猛訓練。9 月特別教育部隊（内地へ帰国）と残留教育隊に分けられ私は後者。残留組は羨ましく残念だったが、帰国組の輸送船が玄界灘で敵に撃沈される。人の運命は、まさに一寸先は闇である。

### 戦局は激化・・・後退・・・武装解除・・・捕虜

満足な戦闘もせず後退を続け、敗軍の兵は、リンコウで終戦を迎え武装解除、日本兵は捕虜となる。20 年 9 月暑い夏 1 個大隊 1000 人が、昼夜兼行で雨の日も風邪の日も野宿して約 250 km を 10 日間位歩き、ソ連領ウオロシロフの炭鉱の田舎町の強制収容所へ入所させられる。地獄の捕虜生活始まる。

### 強制労働収容所・・・極寒・・・次々病死

周囲は有刺鉄線が張りめぐらされ、四六時中狙撃兵が監視。零下 30 度の極寒は地獄の世界。食糧は黒パン（馬糧コウリアンの粃付き）厚み約 2 cm が 1 日 2 回。強制労働は場内清掃の軽作業から炭坑作業・貨車積み込み作業などの重労働。炭鉱作業は、朝 8 時



から 3 交替で、炭鉱まで小一時間、極寒の中止まれば凍傷になる、無口でだだ黙々と歩く。現地に着けば、カンテラ掲げて約 100m 程地下へ階段で降りる。作業は危険がいっぱい、監督の指示が 5 秒違えば頭上からの落盤で全員がペチャンコに、間一髪で九死に一生を得たことも。

極寒、栄養失調・・・9 月に 1000 人いた同胞は、春には 300 人に、欠員は補充され 1000 人はいつも。収容所を出発する前に、前夜逝った戦友の遺体を、台車に乗せ数キロ離れた高地に運び、カチカチに凍った大地を半日がかりで 2～3 cm 掘り、数週間かかって漸く埋葬し、親指のミイラを遺品にし持って帰るのが日課であった。何と悲しい、非情な、運命ではなかったか・・・。

### 復員・内地帰還・・・疎開先で両親と涙の抱擁

昭和 22 年 4 月、内地帰還が決まる。足取りは軽いとは言えないものの貯えた耐力を振り絞りナホトカの港へ。引揚げ船「信洋丸」に乗船、その日は天には真っ赤な朝日が昇り祝福してくれた。1 週間か 10 日かかり西舞鶴の港に。ポツダム宣言を守らず、騙され続けたが、今ここに生きて帰れた。然し戦争は大きな犠牲をはらった。下船時、新品の軍服と乾パン 3 袋・金 300 円が渡される。親への土産と売店でリンゴを買ったが手元には幾らも残らず。復員列車で大阪へ、しかし我が家は跡形もない。両親は島根に疎開と確認し安心する。島根で大粒の涙を流し両親と抱き合い喜んだ感激は一生忘れることはない。両親は息子が帰ってくればと、自分たちは食わず白米一俵残していてくれ、お頭付きの鯛との食事は生涯でこれほど美味しいと思ったことはなかった。

### 最後に・・・「恒久平和」の願いを

戦争中の同胞の苦闘を理解していただき、再び「戦争の悲劇」を繰り返さない、「恒久平和」を深く心に刻んで頂き語り伝えて戴くことを願うものです。

## 硬式野球部 OB会再開総会開かれる

### 会長に S33 年印刷工業科卒山口博司氏

永らく OB 会の活動が休眠状態になっていましたが、会員多数の要望もあり活動を再開することになりました。平成 29 年 4 月 23 日母校今工会館に於て総会を開催。新役員を選出、会員相互の交流を活発に、親睦を深め、母校硬式野球部の援助等を目的に活動の再開が承認されました。

古くは大正 7 年全国中等学校野球大会の大阪予選出場をはじめ、岡田慎吾先生（大正 7 年印刷科第 1 回卒業生・印刷科教諭）が大阪府高等学校野球連盟理事長、その後谷口英男先生（昭和 27 年印刷科卒）、



宮本重儀先生の両先生は副理事長として永年貢献されました。大津秀夫先生は現役理事とご活躍中です。谷口先生と同窓の中西明氏（昭和 27 年電気科卒）は、甲子園での選抜と選手権の審判を 30 数年間務められ、日



岡田慎吾先生

本高等学校野球連盟事務局長もされました。

また、昭和 35 年秋季大会でベスト 4 まで勝ち進みましたが選抜大会の出場を逃した歴史もあります。

今後、OB 会の住所録を整備、母校、今工会、硬式野球部の活動情報をお届けし、会員相互の交流を深めたいと思います。連絡が届いてなければ下記にご連絡下さい。（阿倍野区阪南町 4-2-11・山口博司）

## 硬式野球部

### 昨年選手権大阪大会で宣誓

平成 28 年地方大会では、選手宣誓のくじを引き、力強く池本勇馬主将が宣誓を行ないました。

府予選は、1 回戦は勝利しましたが残念ながら 2 回戦で敗退しました。



## クラス会やっています

### 昭和 33 年電気科 A 組

#### 連絡幹事 坂本重泰 阪井千城

昭和 33 年に電気科 A 組卒業の私達は、去年から今年にかけ、喜寿を迎える年齢になりました、卒業後 60 年です。

卒業時にお互いの研鑽・発展を願って、会合名を「たけくらべ」としました。その後この 60 年毎年欠かさず「たけくらべ」会をもっています。今では、白髪頭やスキンヘッドが多くなり、容姿は年齢なりに変貌しています。しかし、集まれば昔話や近況に花が咲き、当時の気分にもなって楽しいひとときを過ごします。在校当時 3 年間、担任でお世話になった河邊忠道先生はすでに逝去され、最もお世話になった先生に近況を聴いていただけないのは大変残念なことです。

校友の皆様、それぞれの仕事のお立場で、それなりの存在感を示す実績をあげられ、「今工」の名声を守ってこられました。

学校は校名も変わり、校舎も建て替わり、全く新しい景色になっていますが、当時、工業科では府下 1 番の有名校でした。校友の皆様方におかれましては、ご健勝にすごされ、それぞれのお立場で、「今工」の名声をさらに高められるよう願っています。

**書籍の紹介** 坂本重泰氏が US で出版。三菱電機で製造管理・作業研究業務従事後、JMAC、MaynardMEC(Sweden)、ProductivityPartner Inc. で約 50 年国内外で生産性向上のコンサルティング。それらで活用されているのが今回の書籍「Methods Design Concept」です。情報：[https://jp.linkedin.com/in/shigeyasu\\_sakamoto\\_b0b64021](https://jp.linkedin.com/in/shigeyasu_sakamoto_b0b64021)



## 物づくりの楽しさをずっと

印刷工業科昭和 40 年卒業 河合 洋氏

登校して最初にする事、「脱色した作業服への着替え」実習の有無に関わらず、教室での授業も全員同じユニホーム。印刷科の慣習と違和感はなかった。

思い出の大半は実習時間。自身の学生名刺づくり、オンデマンドの卒業アルバムづくり。暗室で印画紙に焼付け、台紙は石版でオフセット印刷。当然全てモノクロ調である。

3 年生の夏休み 3 週間京都の N 社で、凸版・平板・凹版の各製版工程の実習を寮生活と共に体験した。この体験が基本となり、社会人になった時、仕事や人との対応に役立ったと思う。

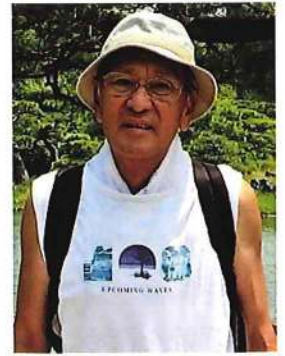
社会人となり、グラビア製版カラー修正に従事し、ハンドワークで製版用フィルムでの補正加工。被印刷物は和紙(掛軸・巻物など)と PET フィルム(レトルト包装など)にシリンダーで作成した版での印

刷です。

それから 20 年後、時代はデジタルに進化した。画像処理機とレイアウトスキナーが導入され、新しい部署に異動。社内での基本知識の研修指導にも参加。PC 普及で珍しくはないが、当時 CPU は煙草の煙さえダメと言われた。それから以後の CPU は日進月歩。

物づくりの思い出で印象深く残っているのは、カメラマンは篠山紀信さんで宮沢りえさんの写真集サントファエの画像処理をしたことです。

物づくりの現場から、製品の品質保証部門に異動後は、製品意匠面で北欧・欧州、台湾・中国など出張が年 15 回程度で、60 才定年後 64 才まで勤めました。今、2 年前から月 5 回程度、工場で顧客対応のアルバイトをしています。合わせて 30 年ぶりにシニア野球を始めておりエンジョイしています。



## 多くの方々に感謝しながら

昭和 58 年定時制機械科卒業 桐浴 邦好



18 歳の時、父が亡くなり母子家庭となり、母と妹を支えるため高校をやめ働かなければなりません。時が流れ 10 年後勉学に目ざめ、強い心で今工を受験し合格することができました。

昼は会社の技術者として働き、学級当番のときは、職場仲間に「どうもすみません」と頭を下げ、途中早退し学校へいきました。学科は、先生が黒板に書かれた内容をノートに書き込み、要点のポイントは赤い線を引く、帰宅後は教科書とノートを前に辞書を参考に必死に要点をまとめました。

実習では、鑄造作業の時、自由選択でテーマを「城」に決め、城の絵は技術的に大変でしたが 10×10cm の板に彫刻刀で彫りました。

これを土に型入れし、型を取り出し、高温に溶けたアルミ溶材を流し込み、数時間後土を割ると、美しい城の絵のアルミ板が現れまし



鑄造実習で作られたプレート・資料室に展示をと戴きました。

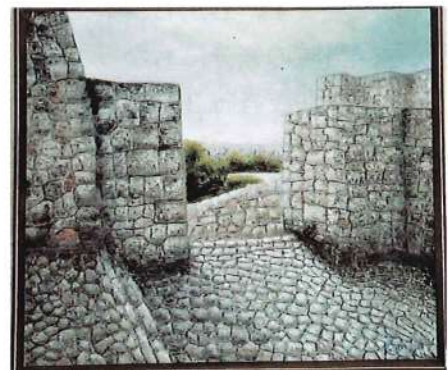
た。今も持っています。

溶接作業では、鉄板の厚みにより電圧調整し、溶接棒も選ぶのですが会社で溶接をしていたので少し楽でした。学科より実習が得意でした。

体育祭の応援団、文化祭の屋台でのお好み焼き、ラーメンづくりやクラブ活動の剣道部などで若い学友と共に過ごし学べたことは、会社の上司、職場仲間、そして今工の先生方のご指導のたまものと感謝し、終生忘れることはできません。

趣味として、平成 5 年から文化センターの洋画教室で油絵を学んでいます。デッサンなどで苦労しましたがお陰様で多数出展もでき、新人賞・努力賞等各賞を戴くことができました。

今度、原稿を書かせたいいただき深く感謝します。



沖縄首里城(油絵 10 号)今工会会館へ寄贈いただきま

### 母 校 の 様 子

3 学年で 3 単位の「課題研究」という科目があり、研究や製作にとりくみます。生徒、教師からテーマを出し合い、そのテーマに希望者をつのり調整し 1 クラス原則 4 班で編成し、各班に先生が 1 名付きます。

3 学期最後に各科で報告会を実施し、その中で一番優秀なとりくみを選び、2 年生への啓蒙を兼ね 2, 3 年生全員のまえで合同発表会が行なわれます。平成 28 年度の優秀なとりくみを紹介します。

□電気系 「ソーラーラジコンカーの製作」 電氣的知識や工作技術を身につけ、ソーラーラジコンカーを製作し、全国大会に出場し自分たちのレベルを知ることが目的に製作。8 月、石川県白山——里野ラジコンサーキット場での全国大会に参加。80 台参加。1 回戦 1 位、2 回戦 3 位で敗者復活戦、3 回戦 3 位で終



了。他校のマシンも研究し理論的に取り入れトレッドも広く回転速度も高いことで「審査員特別賞」を受賞。

□建築系 「新今工の設計」 多様な使い方のできる教室や実習室、階段スペース有効利用、学校のシンボル、地域的なつながりを育む施設の 4 つをテーマに研究。基本計画を策定、図面、3DCAD・模型で計画案を提示。



**校舎模型**  
・機械系の生徒が課題研究で製作。資料室に展示。

### 陸上部

インターハイ棒高跳び出場決まる  
近畿地区予選 2 位で中村龍史君



□工科系 「西成区の外国人旅行者向けの防災マップ、西成のまちについて」 災害に對しいかに障害が多いかを知り、対策や防災意識について考える機会に。外人向け防災マップ完成。



□グラフィックデザイン系 「今工内でマリオの世界を表現する」 ストップモーションムービーで製作。

□機械系 「ボランティア・車いすの修理。整備」 西区にある介護老人保健施設の 20 台の車いすを整備・修理。新聞でも紹介されました。



### 学校正面の工場の壁に生徒の似顔絵出現



これも建築科の課題研究の取り組み。長年落書きの被害で困っておられた浦野株式会社さまから依頼を頂き、壁

画の制作を行いました。「パズルにする」というアイデアから、一人が欠けても成立しないというのはクラスも同じだとの考えから自分たちの顔をパズルに。大判プリンターで印刷した黒とグレーの版を用いてシルクスクリーンの要領で描きました。「みんながひとつ。みんなひとつ。」のメッセージは、まさに誰が欠けても「A3」でないという想いです。

### 大好評のミニSL

### 鉄道研究部

定時制機械科 35 年卒業で元全日制機械科の井上(旧姓明石)先生を中心に制作されたミニ SL が好評で府下さまざまところで走らせています。整



備・運転など鉄道研究部が担当しています。

写真は昨年 11 月の文化祭に運動場で。





## 全・定平成幹事会開催ご案内

2017年11月11日(土) 3時~4時30分

この日は全日制の文化祭の日です。

場所： 今工食堂 軽食と飲み物用意します。

平成に入って卒業された会員の各クラス幹事の皆さんお元気で頑張っておられることと存じます。この度、平成幹事会を開催することになりました。(ご案内は10月に送ります)

今工に勤めておられる、また転勤された若い同窓職員の方々を中心に計画しました。ざっくばらんに話し合い、親睦をはかり、今後の今工会の在り方など出し合えたらと考えています。お忙しいとは思いますがぜひお集まりください。

同級生もさそって一緒にご参加ください。

### 文化祭当日、資料室開放と談話室準備

全日制文化祭 11月11日(土) と 定時制文化祭 10月28日

(土)の両日とも 10時~3時今工会会館資料室公開と今工会館1階奥の部屋を談話室として準備しています(茶菓子を用意します)。ぜひお越しください。

### 紅白の幕新調される・卒業生が寄贈

写真は平成29年度全日制入学式です。紅白の幕が新調されました。これは、昭和35年定時制建築科卒業の新井正準氏(物流関係の三進金属工業KK経営)が、KKみなと銀行さんの「みなと地域貢献寄贈型銀行保証付私募債『あゆみ』(教育機関への支援)の形で母校に寄贈戴いた物です。3月の卒業式から使用しています。



前列本を持っておられる方が新井正準氏

### 今工校歌作詞 佐藤謙三先生のこと

佐藤先生のご子息から、下の写真が送られてきました。ご子息も80才を超え、「父の残した心残りの品ですが、母校にある方が良いと思い」と送っていただきました。ありがとうございました。

佐藤先生は当時今職で国文学の教師をしておられ昭和9年に作詞されています。しかし、ご子息のお手紙では昭和12年33才(ご子息1才)のとき腎臓病で急逝され、ご子息も父のことは記憶にないとのことでした。

こうして、当時記念に佐藤先生に送られた校歌の入った額(バックは当時の校舎)が母校に戻ってきました。資料室に展示しています。

